KOGANECHO BAZAAR 2019

New Menagerie

2019.9.20-11.4

アーティストプロフィール

アカサ・ブックストア Akasa Bookstore

2017 年、アルフィア・ラッディニとアスリー・トレスナディ、ユッサン・アフマッド・ファウジにより昔ながらの市場パッサール・チハピット（バンドン・インドネシア）に本屋として開業。書籍販売の他、ログ・プスタカ出版やティー・バー運営、シャイフル・ガリバルディ、本間メイなどとアートプロジェクトを行う。

Akasa Bookstore

アヌラック・タンニャパリット Anurak Tanyapalit

1992 年、タイ・プレー生まれ。現在チェンマイを拠点に活動。2016 年タイ・チェンマイ大学芸術学部卒業。彼は絵画、インスタレーション、サイトスペシフィックワーク、パブリックアートなどの異なるメディアを横断するような作品を制作。科学分野や都市化、日々の生活におけるプロセスに興味を持つ。こうした彼の関心は様々な物に疑問を投げかけるような実験的な作品につながっており、結果として彼の近年の展覧会における興味深い作品たちを生み出した。

What Should I Do When The Show is Over ?, 2014
installation view

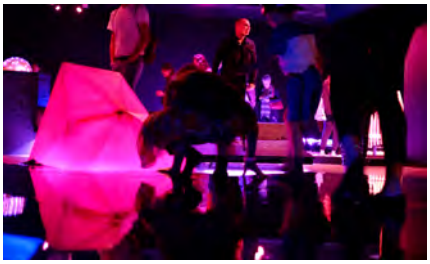
天草ミオ Mio Amakusa

1990 年、埼玉県生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻修了。少女のイメージやぬいぐるみなどを使って、ドローイングやオブジェ、パフォーマティブ作品を作る。近年は透明な紙に裏から描く、レイヤーが逆転したペインティングを中心に制作している。「BankARTAir2017」参加。「彼女を捕まえるための方法」（2016、新宿眼科画廊 ）。「SENTIMENTALGAG」（2014、新宿眼科画廊 ）。

《Never let her go》2019 年
フィルム紙の裏からアクリル絵の具

エレナ・ノックス Elena Knox

現在東京を拠点に活動。早稲田大学基幹理工学研究科表現工学科表現工学専攻で研究を進める。オーストラリアのニューサウスウェールズ大学アート＆デザイン学科メディアアートコースにおいて、彼女の博士論文は大学院研究部門にて優秀賞を受賞。彼女はデジタルメディア、パフォーマンス、彫刻、サウンド、音楽そしてインスタレーションなどの分野を横断した作品を制作。彼女は、人間が自分たちとは異なるものとの共生を図る力、つまり自然現象でさえも共同体の一部に組み込み、宇宙における究極的な人間の孤独を押し返す力となるトーテミズムやフェティシズムといった原始的な衝動に、人々を掻き立てる。


Snoösphere, 2017
installation (with Lindsay Webb)
photo | Lindsay Webb

シジ・クリシュナン Siji Krishnan

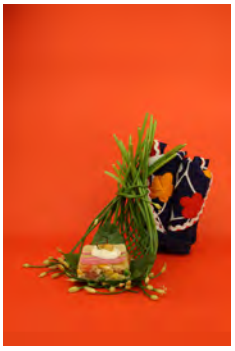
現在インド・コチを拠点に活動。2005 年にケララ州ラジャ・ラヴィ・ヴァルマ美術大学で学士号を、2007 年にハイデラバードのサロジーニナイドゥ美術学校で修士号を取得。彼女にとって絵を描くことは、身体的な感覚とその記憶を記録するとともに、過去の経験を思い返すと同時に現在の感覚を過去と結びつける行為である。媒体となる紙の上で、像とジェスチャーを混ぜ合わせることで、その表面は、寝ている間にとても繊細な夢がまぶたの裏に映し出されているように、うっすらとした感覚のフィルムとして動き始める。ライスペーパーを中心に作品を制作する過程において、記憶、隠喩、および個人史に官能性、繊細さと習熟さを得ていく。

Family Portrait, 2016
watercolour on rice paper

＜本リリースに関するお問い合わせ＞
黄金町エリアマネジメントセンター　横浜市中区黄金町 1-4 先高架下スタジオ Site-B
Tel: 045-261-5467　E-mail: info@koganecho.net（広報担当：立石、神田）

程仁珮（チェン・レンペイ）Cheng Jen-Pei

1983 年台湾・高雄市生まれ。現在台北を拠点に活動。パフォーマンスやプログラムアートを中心に制作。食品研究や作品制作のため、フランス、ベトナム、フィリピンなどでレジデンスプログラムに参加した。歴史や文化のなかで「食」「たべもの」がどのように表現されてきたのかに関心をもち、そして、文化的違いとして現れる地域ごとに異なる食の状況や習慣に関して探求する。2014 年夏から、パリにいる見知らぬ人と行う、食文化と記憶の関係に焦点を当てた長期プロジェクトを始めた。



Fresh sprout
from the series
Recipe evolution movement
2018-,
photography and
mixed media

曹澍（ツァオ・シュウ）Cao Shu

現在中国・杭州を拠点に、ニューメディアアートの部門で活躍。中国美術学院インターメディアアートスクール卒業。主に 3D レンダリングアニメーションとインスタレーションの作品を制作する。近年、CG 技術を用いて、個人の記憶と夢の断片について行ったリサーチをベースに、CG 空間における名づけがたい経験について探求する。

Corner of the Park | Prologue, 2018
5 channel pre-rendered video

土本亜祐美 Ayumi Tsuchimoto

1987 年、広島県生まれ。2011 年広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科メディア造形分野を卒業後、現在は東京を拠点に活動。土地や環境、人からインスピレーションを受け、個人の内的表現に停まらない、地方の地域に積極的に介入したアニメーション表現を模索し、手書きやデジタルドローイング、実写を映像内で意図的に組み合わせた短編アニメを主に制作。

黄金町バザール 2019 イメージ画像

常木理早＋要田伸雄 Risa Tsunegi + Nobuo Yoda

常木理早｜1982 年、群馬県生まれ。現在、東京・神奈川を拠点に活動中。チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザインにて絵画を学び、2009 年グラスゴー芸術学校にて MFA を修了。絵画の陰影や形の重なりによる、実際はないのにあたかもあるように見える奥行きと素材そのものへの興味から表現形態が平面から立体に移行。現在は形、重さ、重力、空間を分割する作品のあり方を探っている。

《Arch Pipe》2018 年
スタイロフォーム、
網タイツ、のり、
ベビーパウダー、
鉄棒
photo｜Shinya Kigure

要田信雄｜1983 年、大阪府生まれ。現在、東京を拠点に活動中。2007 年ゴールドスミス・カレッジ・ファイン・アートにて Contemporary critical studies を修了。日常生活や身振り、映画や小説を含むフィクションなどの観察からそれらの構成要素を選び出し、物質的なものと非物質的なもの（気分、感情、レトリックなど）を同じ次元の素材として扱い、作品において再配置する。

《waiting》2017 年
布、スパンコール、
腕時計、クリップ、紐

ナリッサラ・ピイアンウィマンサ Narissara Pianwimungsa

現在バンコクを拠点に活動。2004 年にシラパコーン大学美術分野絵画コースにて修士号を取得して以来、画家として活躍。2016 年には、同大学より第 15 回 Silpa Bhirasri Creativity Grants を授与され、絵画から刺繍へとスタイルを変え、作家のかねてよりの関心事であった、２つの芸術形体間の類似点やこの新しい方向性の有用性をテーマとした展覧会にてアートシーンに復帰。その態度が作品のメディウムよりも、重要であると信じている。

DOUBLE, 2017
acrylic and embroidery on calico

＜本リリースに関するお問い合わせ＞
黄金町エリアマネジメントセンター　横浜市中区黄金町 1-4 先高架下スタジオ Site-B
Tel: 045-261-5467　E-mail: info@koganecho.net（広報担当：立石、神田）

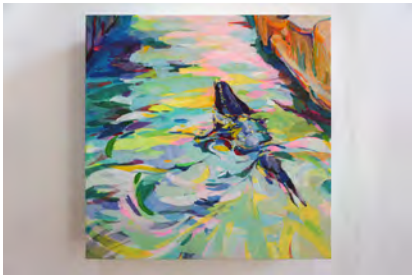
ニワニワパラダイス Niwa Niwa Paradise

日本独自のおもてなしを再構築し、宇宙人（共通認識を持たない相手）を含めた全対象へ表現するクリエイティブユニット。ディレクターの佐藤壮生、アーティストのコタケマン、モデルの池嵜瑞希、セラミックアーティストの My ceramics を中心に、分野を横断したコラボレーティブな創作活動によって、アートが社会と関わる新しい形を目指している。

黄金町バザール 2019 イメージ画像

葉栗翠 Midori Haguri

横浜生まれ。2009 年に武蔵野美術大学卒業後、中国に渡り、2012 年に帰国。その後本格的に絵描きとして活動を始める。現実の場面を平面に描き、それを元に立体作品も制作。モチーフとして選んだ土地の、普段は見過ごされている記憶を呼び起こし、平面と立体、複数の現象が 1 つの現実になったり、 1 つの現象が複数の現実になることに関心を持ち、制作を行う。



《zoo (アシカ)》2019 年
和紙にアクリルと岩絵具

吉田ゆう Yu Yoshida

1986 年、神奈川県生まれ。現在、黄金町 AIR 2019 参加中。2010 年女子美術大学大学院美術研究科修了。主にサメをモチーフとし、日常風景にフィクションである事件を起こす。その場面を写真や彫刻、インスタレーションなどを用い制作。サメという普遍的な恐怖の象徴をアイコンとし、普遍的な風景を人と環境との関係や構造を通じて見つめ直す。

《かつて海だった場所》2019 年
インクジェットプリント

吉本直紀 Naoki Yoshimoto

映画・映像作家。2013 年夏から黄金町 AIR に参加。2015 年「横浜市・成都市 AIR 交流事業」日本アーティストとして中国・成都での AIR 制作により映画「変異ノ夢」を制作。黄金町バザール 2018「pass by 」展に「psychocinesis≒photogenesis」で参加。

《1/3 の発光》2018 年
iPhone、海鴎 二眼レフ、After Effects、HD

レイモンド・ホラチェック Raymond Horacek

マサチューセッツ州郊外の自然の中で生まれ育ち、大学時代にアメリカとフランスでプロダクトデザインを学ぶ。幼少期から興味のある日本文化から着想を得て、人、テクノロジー、自然との結びつきを探求する作品を制作し続けている。またこの探求はフットウェア、ウェアラブルテクノロジー関連の商品をデザインする際にも及んでいる。

Mirrored Presence 6, 2017
mixed media

＜本リリースに関するお問い合わせ＞
黄金町エリアマネジメントセンター　横浜市中区黄金町 1-4 先高架下スタジオ Site-B
Tel: 045-261-5467　E-mail: info@koganecho.net（広報担当：立石、神田）